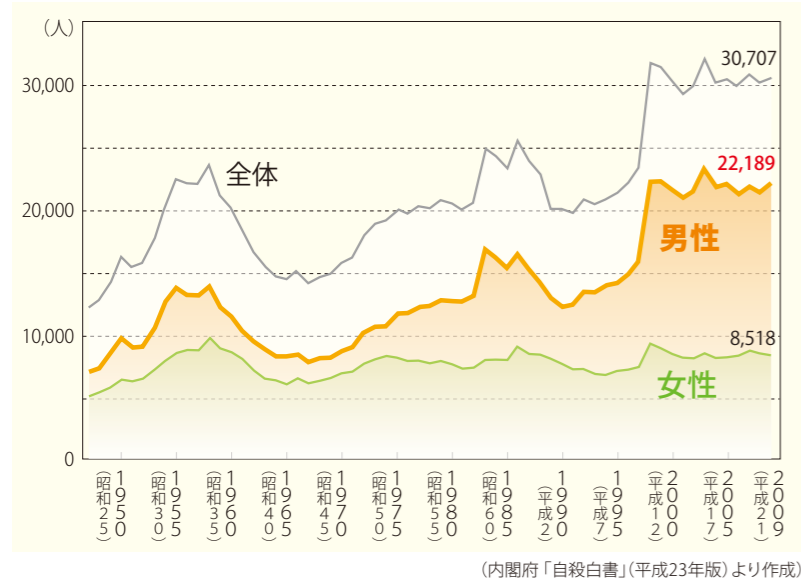


データ7 自殺者数の推移



近年、自殺者数は増加傾向にあり、特に男性の自殺者が急増しています。平成10年に2万人を超えて以降、継続して2万人台を推移しています(データ7)。自殺者の増加は深刻な男性の問題であると、専門家は指摘しています。

自殺白書(内閣府)によると、男性の自殺の原因として「健康問題」「経済・生活問題」が上位にあげられています。特に40代・50代では「経済・生活問題」が「健康問題」を上回っています。

自殺者の中にはうつ病にかかっている人が多くいる

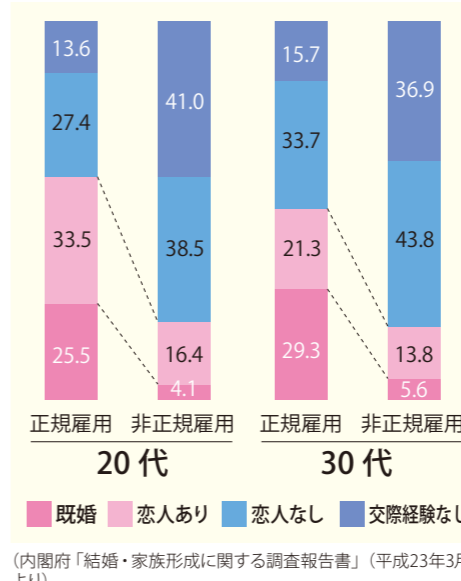
## 男性に増えている

### 自殺者、心の病

## 男性は長時間労働、子育てに関われない

長時間労働は減少傾向にあるものの、男女による二極化がみられます。男性は長時間で働く人が多く、女性は短時間で働く人が多くなっています(データ5)。さらに、年齢別にみた調査によると、子育て期にあ

データ4 雇用形態別に見た婚姻・交際状況



男性の雇用環境の悪化は、若者の結婚にも大きく影響しています。20代・30代の婚姻・交際状況を雇用形態別にみると、正規雇用のほうが非正規雇用よりも既婚者や恋人ありの割合が高く、正規雇用では約20%であるのに対し、非正規雇用では既婚者は約5%、恋人ありも約13~16%程度にとどまっています(データ4)。

年収別でも同様の傾向にあり、年収300万以上では既婚者や恋人ありの割合は約25~40%あるのに対し、300万以下では約8~9%と大きな格差がみられます。

## 恋愛も結婚も難しい？

### 稼ぎがないと

いま、社会の構造が大きく変わるなか、「男性はこうあるべき」という意識が重荷になっているのではないのでしょうか。

男は仕事、家族を養うもの、強くあるべき、弱音をはかない……。こうした「男らしさ」にとらわれて、男性は悩みを一人で抱え込んでしまう傾向にあります。男性にうつ病や自殺者が多い要因の一つといわれています。

市民アンケートをみても、相談しない、相談先は必要ない、相談先があることを知らなかったという声が多くみられました。精神面で孤立しやすい男性に向けた相談体制の整備が求められます。

男女共同参画社会は、男女の人權が等しく尊重され、ともに責任を分かち合い、個性と能力を発揮できる社会です。その実現は男性にとっても重要な課題です。

男性が暮らしやすい社会につながります。そのためには、私たち一人ひとりの「男はこうあるべき」「女性はこうあるべき」といった固定的性別役割分担意識を解消していくことが何より大切です。

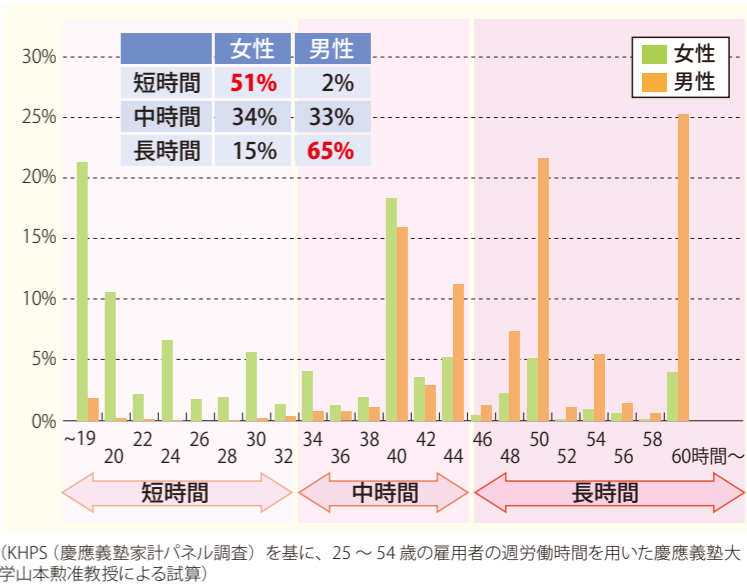
## 悩みを一人で抱え込み、相談できない男性

要因の一つに、長時間労働に加え、不況による人員削減で管理職同様の責任を負わされているなどの状況があげられます。30代は子育てにも忙しい世代。仕事に追われ家庭に関わる時間が思うように持てないなか、労働環境の悪化は大きなストレスになっているようです。

といわれています。うつ病などの男性がかかりやすい心の病は、これまで40代以上の管理職世代に多くみられました。しかし、近年は30代でも増えていて、精神障害による労災認定件数も高くなっています。

その一方、育児に参加したいと考える男性の意識もみられます。3割以上の男性が育児休業制度や育児のための短時間勤務制度を利用したいと考えています(データ6)。しかし、現状ではほとんど実現できていません。平成23年の育児休業取得率も過去最高を記録したとはいえ2.63%にとどまっています。男性の1日の育児時間も約30分で、国際的にも低い水準です。

データ5 労働時間の分布(男女別)



データ6 両立支援制度の利用意向

	全体	男性	女性
調査数	1,553	752	801
育児休業制度	50.9%	31.8%	68.9%
育児のための短時間勤務制度	48.9%	34.6%	62.3%

(厚生労働省「女性雇用管理基本調査」より作成)

**Q1** 特別休暇など救えるシステムを作るべき

会社で相談すると情報が知れ渡る心配が

相談先があることを知らなかった

信頼できる人以外は話したくない

**Q2** お酒で気をまぎらわす

窓口があっても相談しないと思う

メンタルケアの医師が会社に来るが、利用する人は少ない

**Q3** 二人の子どもなので二人ですべき(育児)

参加したいが、時間的に余裕がない(育児)

休日は特に手を貸し、妻の負担を軽くすべき(育児)

小さい時こそ関わるべき。後悔している父親が多いのでは(育児)

**男性の心の悩みについて**

**男性の長時間労働について**

**男性の育児・家事参加について**

**Q4** まずは、上司から残業をやめる

残業しなければ、給料に影響するので働かざるをえない

諸悪の根源。法規制すべき

家事や育児に参加できない最大の要因

参加ではなく、分担であると思う(家事)

慣れないので、どこから手をつけるのか悩む(家事)

休みの日には協力しようと思う(家事)

専業と共働きでは違うが、当然やるべき(家事)